

# 平成24年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）

鹿児島市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的（「平成24年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」から）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### (2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数（抽出）

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数		
		本市	県(公立)	全国(公立)	本市	県(公立)	全国(公立)
		抽出率					
小学校	6年生	25/78校 32%	166校 30.9%	5,140校 24.7%	1,776人	4,847人	255,186人
中学校	3年生	22/39校 56.4%	124校 53.7%	4,296校 43.1%	2,841人	8,371人	424,379人

### (3) 調査の内容

ア 児童生徒に対する調査（国語、算数・数学、理科、質問紙調査）

#### (ア) 教科に関する調査

##### ○ 国語、算数・数学

##### ・ A主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

##### ・ B主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

##### ○ 理科

「A問題」と「B問題」に分けることはせず、知識と活用を一体的に問う問題

#### (イ) 質問紙調査

生活習慣や学習環境等に関する調査

#### イ 学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### (4) 調査日時

平成24年4月17日（火）

【小学校】

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語A(20分) 算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	理科(40分)	児童質問紙(20分)

【中学校】

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	
国語A(45分)	国語B(45分)	数学A(45分)	数学B(45分)	理科(45分)	生徒質問紙(20分)

## 2 教科の区分（A「知識」とB「活用」）に関する調査結果

※ 平成24年度調査は抽出調査であるため、県、全国は、平均正答率の95%信頼区間で示されている。

※ 平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率

※ 平均正答率の95%信頼区間・・・95%の確率で、全員を対象とした調査（悉皆調査）の場合の平均正答率が含まれる範囲のこと。

### (1) 小学校（調査対象：6年生）の平均正答率（%）

教科	国語		算数		理科
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
区分	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	「知識」「活用」
本市	82.8	57.8	75.3	60.4	64.8
県	80.5～81.8	53.9～55.7	73.3～74.7	57.3～59.2	62.7～64.1
全国	81.4～81.7	55.4～55.8	73.1～73.5	58.7～59.1	60.8～61.1

### (2) 中学校（調査対象：3年生）の平均正答率（%）

教科	国語		数 学		理科
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
区分	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	「知識」「活用」
本市	75.6	63.4	63.0	48.5	51.0
県	73.4～74.5	61.7～63.0	59.7～61.1	45.8～47.5	48.9～50.2
全国	75.0～75.2	63.2～63.4	62.0～62.3	49.2～49.5	50.9～51.1

# 平成24年度 全国学力・学習状況調査（国語）

～調査結果から見える本市国語科教育の課題について～

学校教育課

## 1 国語科の調査結果

小学校においては、A・B問題ともに、全国平均をやや上回っている結果であった。

中学校においては、A・B問題はともに、全国平均とほぼ同じであった。また、「話すこと・聞くこと」はA・B問題ともに、「書くこと」は、A問題で全国正答率を下回る結果となった。

平成二十二年度と比較すると、小・中学校のA・B問題ともに、全国平均との差が小さくなってきた。

項	小学校		中学校	
	A	B	A	B
本市正答率	82.8	57.8	75.6	63.4
全国正答率	81.4～ 81.7	55.4～ 55.8	75.0～ 75.2	63.2～ 63.4

## 2 本市国語科の課題

- ・ 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすることに課題がある。
- ・ 目的意識や相手意識、理由や根拠を明確にして話したり書いたりすることに課題がある。

### 【各学校種別の課題】

#### <小学校の課題>

- ・ 狙いを明確にして質問をする。
- ・ 目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合う。
- ・ 手紙の構成を理解し、後付けを書く。
- ・ 編集者の意図を捉える。

#### <中学校の課題>

- ・ 手紙の形式を理解して書く。
- ・ 目的に応じて必要な情報を読み取る。
- ・ 文章の展開に即して内容を捉える。
- ・ 相手の話を踏まえて話す。
- ・ 話の展開に注意して聞く。
- ・ 相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書く。

## 3 課題を示す特徴的な問題

### 【小学校B1三】

《手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する問題》

三 平川さんは、手紙の後付けを書こうとしています。「手紙の下書き」の「ア」の中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 中央小学校 六年一組

2 かがやきの森動物園

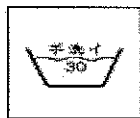
3 平成二十四年五月七日

園長 宮本 真一様

### 【中学校A6二】

《目的に応じて必要な情報を読み取ることができかどうかをみる問題》

二 次は、衣服に付いている乾洗剤の成分です。乾洗剤で洗った衣服をそのまま洗濯する場合は、乾洗剤の成分が衣類の繊維に残り、色を褪せたり、縮んだりすることがあります。乾洗剤の成分を洗い流すには、乾洗剤の成分を洗い流す必要があります。乾洗剤の成分を洗い流すには、乾洗剤の成分を洗い流す必要があります。



- 1 アルカリ性の洗剤で洗うこと。
- 2 高温のお湯で洗うこと。
- 3 中性洗剤で洗うこと。
- 4 ゆるま湯で洗うこと。

### 【本市正答率】

34.6%

目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題

### 【本市正答率】

21.3%

手紙の構成を理解し後付けを書くことに課題



平成24年度 全国学力・学習状況調査（算数・数学）  
～調査の結果から見える本市算数・数学教育の課題について～

1 算数・数学科の調査結果

（全国のデータは、95%信頼区間）

小学校では、A・B問題ともに、本市の平均正答率は全国の平均正答率をやや上回っており、A問題については、正答率も70%を越えている。しかし、B問題は、A問題より、全国との差は小さい。

一方、中学校は、A問題は、全国をやや上回ったが、B問題は、全国よりやや下回っている。

	算数		数学	
	A	B	A	B
本市	75.3	60.4	63.0	48.5
全国	73.1 ～73.5	58.7 ～59.1	62.0 ～62.3	49.2 ～49.5

【算数・数学の平均正答率（%）】

2 本市算数・数学科の課題

【小・中学校共通】

- ・ A問題の「基礎」に関する問題の定着を図るとともに、B問題の「活用」に関する問題ができるように取り組む必要がある。

【小学校】

- ・ 判断の根拠に必要な情報を取り出し、言葉や数を用いて、数学的に記述することに課題がある。

【中学校】

- ・ 考察の対象となる事象の特徴を適確に捉え、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて、証明することに課題がある。

本市正答率（%）

(1) 86.7    (2) 23.7    (3) 61.7

3 課題を示す特徴的な問題（下・次頁参照）

【小学校】②

体育科の学習に関連して、規格が異なる2種類の跳び箱の高さについて、数学的に考察する問題である。

(1)は、場面と対応させて式を読んで、選択する問題であり、全国と比べてほぼ同じであった。

しかし、(2)は必要な情報を用いて、判断の理由を数学的に表現する問題であるが、全国を下回った。

なお、(3)は、示された複数の情報を関連付けて解釈し、算数の用語で適確に表現されているものを選択する問題であるが、全国を上回った。

②

ゆかりさんの学校には、小型と中型の2種類の跳び箱があります。  
小型の跳び箱の1段ごとの高さは、1段目が30cm、2段目から8段目までがそれぞれ10cmです。  
中型の跳び箱の1段ごとの高さは、1段目が35cm、2段目から4段目までがそれぞれ15cm、5段目から8段目までがそれぞれ10cmです。

小型の跳び箱（8段）

中型の跳び箱（8段）

① 中型の跳び箱を8段にしたときの高さを求める式はどれですか。次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1  $35 + 15 \times 8$
- 2  $35 + 15 \times 7$
- 3  $35 + 15 \times 4 + 10 \times 3$
- 4  $35 + 15 \times 3 + 10 \times 4$

② ゆかりさんたちは先生から、小型と中型の跳び箱を、同じ高さにして準備するようになのまれました。  
まず、みんながよく練習している小型の跳び箱を5段にしました。そのときの高さは70cmでした。

小型の跳び箱（5段）

次に、中型の跳び箱を小型の跳び箱と同じ70cmの高さにしようと思います。中型の跳び箱を70cmの高さにすることはできません。  
下の1と2から正しいほうを選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 中型の跳び箱を70cmの高さにすることはできる。
- 2 中型の跳び箱を70cmの高さにすることはできない。

(3)は省略

【中学校】4

垂線の作図の手順を読み、そこで用いられている図形の性質について考える問題である。

(1)は、図形の特徴を適確に捉えて選択する問題であり、全国とほぼ同じであった。

しかし、(2)は筋道を立てて考え、証明を書く問題であるが、全国を下回った。

なお、(3)は、複数の事象を統合的に捉えて共通の視点を見だし、選択する問題であるが、全国をやや下回った。

4 直線と上の点Pを通るその垂線は、下の手順①、②、③で、図1のように作図することができます。

手順① 点Pを中心として適当な半径の 図1  
円をかき、直線ととの交点を点A、  
点Bとする。

手順② 点A、点Bを中心として、等し  
い半径の円を交わるようにかき、  
その交点の一つを点Qとする。

手順③ 点Pと点Qを通る直線をひく。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 図1の点Q、A、P、Bを順に結ぶと、 $\triangle QAB$ ができます。この $\triangle QAB$ を紙にかいて直線PQを折り目として折ったとき、点Aが重なるのはどの点ですか。その点の記号を書きなさい。

(2) 図1の直線PQが直線lの垂線であることを示すために、 $PQ \perp l$ を証明します。手順①から $AP = BP$ 、手順②から $QA = QB$ となることが分かります。これらをもとに、 $\triangle QAP = \triangle QBP$ を示し、下の証明を完成しなさい。

証明

$\triangle QAP$ と $\triangle QBP$ において、

合同な三角形の対応する角は等しいから、  
 $\angle APQ = \angle BPQ$   
 $\angle APQ + \angle BPQ = \angle APB = 180^\circ$ なので、  
 $\angle APQ = \angle BPQ = 90^\circ$   
 したがって、 $PQ \perp l$

(3) は省略

本市正答率 (%)  
 (1) 88.6    (2) 39.7    (3) 54.6

4 児童・生徒質問紙との関連  
 (本市児童・生徒の「あてはまる」割合)

(58) 授業の内容はよく分かるか。
(66) 言葉や式を使って理由や求め方を説明する問題の解答を書こうと努力したか。

	番号	本市	全国	全国との差
算数	(58)	53.9	43.5	+10.4
	(66)	76.2	72.4	+3.8
数学	(58)	28.1	26.4	+1.7
	(66)	45.5	45.9	-0.4

【児童・生徒質問紙の結果 (%)】

※ (58) の授業内容の理解については、小・中学校ともに全国を上回る。

しかし、(66) の言葉や式を使って理由や求め方を記述する問題への意欲は(58)と比べて大きく下回る。

5 授業改善のポイント

(1) 算数

- ・ 具体場面、図・表・式との関係を的確に捉え、自由に使いこなせるような表現活動を工夫する。

具体場面 ↔ 図・表 ↔ 式 ↔ 具体場面

- ・ 自分で考えたことを相手にわかりやすく書いたり、説明したりする活動を一層充実する。

(2) 数学

- ・ 生徒主体の問題解決的な授業を中心に据える。

【授業スタイルの確立】  
 課題把握 ⇨ 自力解決 ⇨ 相互解決 ⇨  
 ⇨ 補充・深化・発展 ⇨ まとめ

- ・ 自分の考えたことをわかりやすく筋道を立てて表現する活動を取り入れる。

# 平成24年度「全国学力・学習状況調査」(理科)

～調査結果から見える本市理科教育の課題について～

学校教育課

## 1 理科の調査結果

小学校調査では全国平均を上回り、中学校調査では全国平均とほぼ同じである。

	小学校理科	中学校理科
本市正答率	64.8	51.0
全国正答率	60.8 ～61.1	50.9 ～51.1

## 2 本市理科の課題

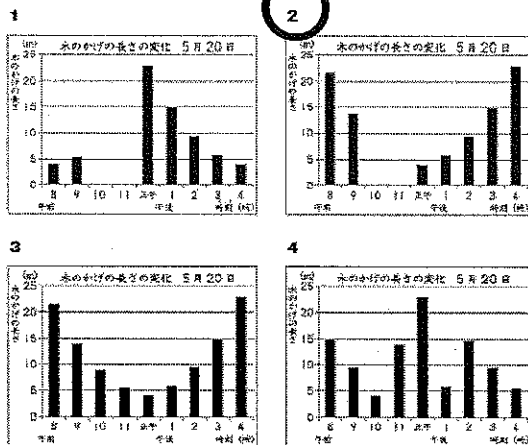
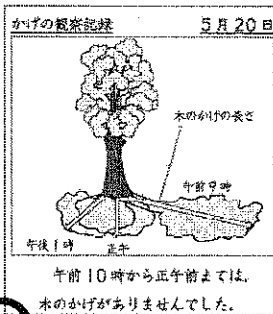
- ・ 観察・実験の結果を整理し考察することに課題がある。
- ・ 科学的な言葉や概念を使用して、考えたり説明したりすることに課題がある。
- ・ 基礎的・基本的な知識や技能を活用して、仮説を検証するための観察・実験を計画することに課題がある。

## 3 課題を示す特徴的な問題

〔小学校6年〕 4

(3) 三郎さんは、右のように観察記録をまとめました。

この日の木のかげの長さの変化をまとめたグラフはどれですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



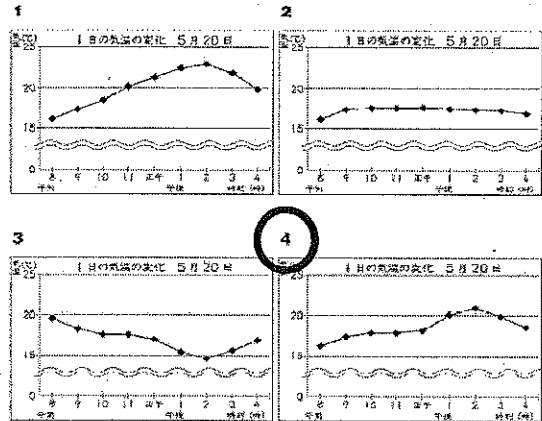
「かげの観察記録」から「10時から正午前までは、木の影がない」こと、「影の長さは、午前9時より正午の方が短い」ことを読み取る。

本市正答率  
54.4%

3と誤答したのが26.6%あった。影の長さの変化は理解できているが、「影のなかった時間」を踏まえて状況を捉え、グラフに整理することに課題がある。

(5) 三郎さんは、同じ日に気温をはかりました。

この日のかげのようすから1日の天気を考えて、気温の変化を表したグラフはどれですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。



〔わけ〕 日光が当たると午後2時までは気温が上がるが、午前10時から正午前までは、曇っていたので気温は上がらない。

本市正答率  
14.5%

1と誤答したのが23.0%あった。1日の中で、「曇りや雨の時間帯があったこと」を分析し、気温の変化と関係付けることに課題がある。

「かげの観察記録」から、10時から正午前までは、木の影がないこと、かげの長さは午前9時より正午の方が短いことを分析することにより、

(3)は、時間と木の影の長さの関係を表しているグラフを選ぶ「活用」問題である。

(5)は、時間と気温の関係を表しているグラフを選び、その理由を記述する「活用」問題である。

小学校では、ほとんどの設問で全国の正答率を上回っているが、(3)の正答率はほぼ同じである。(5)の正答率は14.5%と大変低く、全国をやや下回っている。

## 〔中学校3年〕 2

レポート1 最初に、昌夫さんは、実験1を行いました。次は、そのレポートの一部です。

**実験1**

【目的】豆電球に加える電圧を変化させたときの、豆電球の光り方と豆電球に流れる電流の大きさを調べる。

【準備】直流電源装置、スイッチ、電流計、電圧計、導線、豆電球

【方法】図1の回路で実験を行う。

【結果】実験の結果を表にまとめた。

電圧(V)	豆電球の光り方	電流(mA)
0.4	ほとんど光らない	121
1.2	少し光る	?
2.0	明るく光る	270

(1) 図2は、電圧が1.2Vのときの電流計を表しています。このときの電流の大きさは何mAですか。

電流計の一端子が500mAにつながれているので、最小目盛りの1/10まで読み取ると、218mAとなる。

本市正答率

42.0%

220mAと誤答したものが29.8%あった。一端子の選択は理解できているが、「最小目盛りの1/10まで読み取る」ことについて課題がある。

**レポート2** 続いて昌夫さんは、図1の豆電球を発光ダイオードに交換して、実験1と同様に実験2を行いました。次は、そのレポートの一部です。

**実験2**

【方法】図3の回路で実験を行う。

※ 発光ダイオードの長い方を+につなぎ、短い方を-につなぐ。

【結果】

① 電圧が0.4V、1.2Vのときは光らなかった。

② 電圧が2.0Vのときは、明るく光り、そのときの電流の大きさは20mAであった。

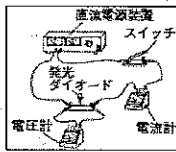


図3

実験を終えて、昌夫さんは先生と話をし、考察しました。

**考察**

先生：昌夫さんは、実験1、2を別々に行い、その結果をまとめたんですね。ところで、家庭では、いろいろな電気器具を同時に使いますね。家庭の回路のように、豆電球と発光ダイオードを1つの回路で同時に使用しても測定できますね。このように、1つの回路で、実験1、2と同じ結果を得るためには、どのような回路をつくって測定すればよいですか。

昌夫：豆電球と発光ダイオードに同じ電流を流すために、それらを直列につないで測定すればよいと思います。

(2) 先生の問いかけに対する昌夫さんの考えには、誤りがあります。実験1、2と同じ結果を得るために、下線を正しく書き直さない。

**【正答】**

同じ電圧を加えるために、それらを並列につないで

本市正答率

9.2%

「並列につなぐ」ことは60.4%が回答できているが、「同じ電圧を加える」ことは12.3%しか回答できていない。直列回路、並列回路の基本的な性質について理解が不足しており、活用して思考することに課題がある。

(6) 昌夫さんは、60Wの白熱電球と9WのLED電球を、それぞれ1時間使用する場合に消費する電力量の差を求めるところにしました。これらの電力量の差は何kJですか。式と答えを書きなさい。ただし、1000J=1kJです。

本市正答率

12.3%

電力量について理解が不足しており、白熱電球とLED電球の違い(消費電力の違い)を説明することに課題がある。

(1)は、電流計の読み方の技能(電流計の一端子がどこにつながれているかを確認し、電流計の最小目盛りの1/10まで読みとる)を身に付けているかどうかをみる「知識」問題である。

(2)は、直列回路、並列回路に関する知識を活用して、他者の実験方法を検討・改善し、正しい実験方法を説明することができるかどうかをみる「活用」問題である。

(6)は、電力量[J]=電力[W]×時間[s]を使って、1時間使ったときの白熱電球の消費する電力量とLED電球の消費する電力量の差を求め、電力量の単

位をJからkJへ変換かどうかをみる「知識」問題である。

中学校では、ほとんどの設問で全国の正答率とほぼ同じであるが、(1)は全国をやや下回り、正答率が42.0%と低い。(2)と(6)は正答率がそれぞれ9.2%、12.3%と大変低い。

(2)は直列回路、並列回路の基本的な性質について理解が不足しており、活用して思考することに課題がある。(6)は電力量の理解が不足しており、白熱電球とLED電球の消費する電力の違いを活用して比較し、LED電球のよさを説明することに課題がある。

4 学校質問紙との関連

自ら考えた仮説をもとに観察・実験の計画を立てさせる指導を行ったか。

「よく行った」と回答		
	小学校	中学校
鹿児島市	40.0%	9.1%
全国との差	+22.1%	-3.3%

観察や実験の結果を整理し、考察する指導を行ったか。

「よく行った」と回答		
	小学校	中学校
鹿児島市	52.0%	13.6%
全国との差	+28.0%	-12.7%

学校質問紙から、理科の指導として、自ら考えた仮説をもとに観察・実験の計画を立てさせる指導、観察や実験の結果を整理し考察(分析し解釈)する指導、観察や実験に関する記述方法についての指導を行った学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

5 授業改善のポイント

観察・実験をとおして、思考力、判断力、表現力を育成する「問題解決的な学習」を行うこと。そのためには、次の点を確実に取り入れた授業改善を行うことが大切である。

(特に、中学校は徹底すること)

- ① 目的を明確にし、自分なりの予想や仮説をもって実験・観察を行わせる。
- ② 観察・実験の結果を整理し、考察したことを自分の力で文章化させ、説明させる。



【児童生徒に対する質問紙調査結果(抜粋)】

1 将来の夢や目標を持っていますか

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①当てはまる	74.9	75.4	69.8	77.6	77.5	70.2
②どちらかといえば当てはまる	13.3	13.8	16.9	12.5	12.0	16.6
③どちらかといえば当てはまらない	7.0	6.3	7.8	5.3	5.9	7.6
④当てはまらない	4.7	4.4	5.4	4.5	4.5	5.6
中学校						
①当てはまる	49.1	48.0	45.5	49.4	48.3	44.3
②どちらかといえば当てはまる	25.0	26.3	27.7	24.7	25.6	27.4
③どちらかといえば当てはまらない	16.9	16.6	17.6	17.1	17.3	18.3
④当てはまらない	9.0	9.0	9.1	8.9	8.7	9.9

夢や目標を持っていると答えた児童生徒は、小中学校ともに、県、全国と同程度である。

2 あなたの学級では、学級の友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思いますか。

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①そう思う	34.4	33.2	33.1	24.5	30.1	31.4
②どちらかといえば、そう思う	46.9	45.7	46.9	53.8	50.5	49.7
③どちらかといえば、そう思わない	14.1	16.0	15.3	17.8	14.9	14.5
④そう思わない	4.3	4.8	4.6	3.8	4.4	4.3
中学校						
①そう思う	17.6	20.2	26.8	19.8	20.7	24.3
②どちらかといえば、そう思う	45.3	47.5	48.1	44.5	44.6	47.1
③どちらかといえば、そう思わない	25.6	22.8	17.9	24.7	24.2	19.6
④そう思わない	11.4	9.4	7.1	10.8	10.3	8.9

中学校では、全国と比較すると、学級において話し合い活動でものごとを決めていると思わない、もしくは、どちらかといえば思わないという生徒の割合が高い。

3 朝食を毎日食べていますか

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①している	88.0	87.5	88.7	89.9	88.5	89.0
②どちらかといえば、している	7.8	8.3	7.4	7.1	7.9	7.4
③あまりしていない	3.4	3.4	3.1	2.3	3.0	3.0
④全くしていない	0.7	0.7	0.8	0.7	0.6	0.6
中学校						
①している	86.5	86.1	83.9	87.0	87.5	83.5
②どちらかといえば、している	8.5	9.1	9.7	8.3	8.3	9.8
③あまりしていない	3.4	3.7	4.6	3.5	3.1	4.8
④全くしていない	1.6	1.1	1.8	1.2	1.0	1.9

朝食を毎日食べている及びどちらかといえば毎日食べている児童生徒が95%以上いる一方で、朝食を全くとらない児童生徒もいる。

4 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①3時間以上	11.7	7.8	11.1	10.3	8.4	11.4
②2時間以上3時間より少ない	18.4	16.6	14.5	19.2	16.3	14.3
③1時間以上2時間より少ない	40.3	41.7	33.9	40.1	41.1	32.5
④30分以上1時間より少ない	19.9	23.4	26.1	19.5	23.5	26.5
⑤30分より少ない	6.5	6.9	10.5	7.1	7.1	11.3
⑥全くしない	3.0	3.4	3.8	3.8	3.6	3.9
中学校						
①3時間以上	14.7	11.1	9.9	21.9	14.2	10.2
②2時間以上3時間より少ない	34.1	28.5	25.4	36.3	30.5	25.5
③1時間以上2時間より少ない	27.5	33.4	31.1	25.8	32.3	30.5
④30分以上1時間より少ない	13.1	16.2	16.9	9.2	14.8	16.7
⑤30分より少ない	6.7	7.0	9.7	4.2	5.4	9.8
⑥全くしない	3.9	3.7	6.9	2.5	2.8	7.1

全国と比較すると、学校外で1時間以上勉強している小学生や、2時間以上勉強している中学生は多いが、22年度調査と比較すると、低くなっている。1割の生徒が、家庭学習の時間が30分以下、もしくは、全くしていない。

5 読書は好きですか。

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①当てはまる	53.8	52.8	47.7	50.6	52.3	47.7
②どちらかといえば当てはまる	24.2	24.9	24.9	24.3	24.9	25.3
③どちらかといえば当てはまらない	14.0	14.1	16.4	16.2	14.6	16.4
④当てはまらない	7.8	8.1	10.9	8.9	8.1	10.4
中学校						
①当てはまる	49.0	47.3	45.0	45.7	45.8	43.7
②どちらかといえば当てはまる	25.6	26.2	24.7	24.8	25.7	25.1
③どちらかといえば当てはまらない	13.9	15.8	17.1	17.3	17.3	18.0
④当てはまらない	11.2	10.5	12.9	11.8	10.8	12.9

全国、県と比較すると、読書が好きな生徒の割合が高く、さらに22年度より増加している。

6 携帯電話で通話やメールをしていますか。

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①ほぼ毎日している	10.9	7.0	12.3	6.8	4.6	9.5
②時々している	17.7	15.4	15.9	12.2	10.2	13.6
③全く、または、ほとんどしていない	7.1	7.6	7.0	5.8	5.8	6.3
④携帯電話を持っていない	63.4	69.0	64.1	74.6	78.6	69.9
中学校						
①ほぼ毎日している	24.9	19.9	32.6	18.2	15.3	30.3
②時々している	22.4	23.8	23.7	21.8	20.7	22.5
③全く、または、ほとんどしていない	4.1	5.1	5.2	4.8	5.0	5.3
④携帯電話を持っていない	48.7	51.2	38.5	55.1	58.9	41.8

全国と比較すると、携帯電話の使用頻度は高くないが、小中ともに、22年度より増加しているおり、また、県より高い。中3での携帯電話の所持率も50%を超えている。

7 普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか。(テレビゲームは除く)

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①まったくしない	1.6	1.6	1.5	1.1	1.6	1.4
②1時間未満	11.5	11.5	11.0	9.2	10.0	10.1
③1時間以上、2時間未満	23.3	22.5	21.2	20.4	19.6	20.9
④2時間以上、3時間未満	22.0	23.7	23.4	24.0	23.6	24.3
⑤3時間以上、4時間未満	20.6	19.9	19.4	22.2	23.0	20.5
⑥4時間以上	20.7	20.6	23.3	23.1	22.2	22.8
中学校						
①まったくしない	1.4	1.7	1.6	1.6	1.3	1.4
②1時間未満	14.9	15.1	13.1	14.3	12.7	11.2
③1時間以上、2時間未満	29.5	28.8	26.1	28.9	26.6	25.7
④2時間以上、3時間未満	26.1	26.3	26.6	27.8	28.7	27.1
⑤3時間以上、4時間未満	16.6	17.0	16.9	15.5	18.0	18.8
⑥4時間以上	11.4	11.1	15.6	11.9	12.5	17.7

テレビやビデオ、DVD視聴時間については、22年度と比較すると、大きな変化はない。全国・県とも同程度である。

8 普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか。

	平成24年度			平成22年度		
	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校						
①まったくしない	50.3	55.1	45.3	58.9	63.6	52.2
②1時間未満	32.2	28.7	33.5	26.0	22.5	29.8
③1時間以上、2時間未満	9.7	9.0	11.5	8.9	8.6	10.6
④2時間以上、3時間未満	4.4	3.7	4.8	3.5	3.2	4.0
⑤3時間以上、4時間未満	1.6	1.6	2.3	1.7	1.2	1.8
⑥4時間以上	1.7	1.7	2.5	1.1	0.9	1.7
中学校						
①まったくしない	36.4	37.7	23.9	49.5	51.4	35.0
②1時間未満	32.0	31.2	32.7	27.0	25.4	29.9
③1時間以上、2時間未満	15.9	15.8	19.0	13.2	13.2	16.9
④2時間以上、3時間未満	8.8	8.3	11.3	5.7	5.8	9.1
⑤3時間以上、4時間未満	3.8	3.8	6.0	2.5	2.3	4.5
⑥4時間以上	3.0	3.1	6.9	1.9	1.8	4.5

インターネットをする時間は、22年度と比較して、小中ともに増加傾向にある。

【考察】

- ・ 22年度調査と比較して、テレビ視聴時間は変わっていない一方、携帯電話やインターネットに費やす時間が増えており、家庭における学習時間が減少してきている。保護者と連携して家庭における学習習慣を形成を図りたい。
- ・ 中学校においては、学級活動で話し合い活動をととした人間関係づくりや学級づくり、諸問題の解決へ自主的に取り組もうとする態度を育てる必要がある。